

## 令和4年度 第2回教育課程編成委員会

令和4年11月14日(月) 13:30~15:30

国際園芸アカデミー 研修室A

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 委員紹介

### 4 検討事項

#### (1) 令和4年度カリキュラム及び分野別授業の実施状況について

・カリキュラム編成図 …資料1

・開講科目 …資料2

・分野別授業の実施状況 …資料3

花き生産流通分野 ①「花き生産実習」 (1年前期)  
②「生産マネジメント実習Ⅰ」 (1年後期)  
③「イベント販売実習」 (1年後期)

花き装飾分野 ④「3級園芸装飾技能検定対策実習」(1年前期)

造園緑化分野 ⑤「3級造園技能検定対策実習」(1年前期)  
⑥「製図実習」 (1年後期)

マーケティング分野⑦「商品動向リサーチⅠ」 (1年前期)

マネジメント分野⑧「起業・経営シミュレーション」 (1年後期)

### 5 意見交換

### 6 授業見学

2学年「卒業研究・卒業制作Ⅱ(装飾)」  
「造園工学・施工論」

### 7 閉 会

令和4年度 第2回 国際園芸アカデミー 教育課程編成委員会 出席者名簿

	分 野	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
委員長		岐阜県立国際園芸アカデミー 学長	今西 良共	
委員	学識経験者	岐阜大学応用生物科学部 教授	山田 邦夫	Zoom参加
委員	花き生産業界(切花)	ユーティローズ 代表者	宇野 充辰	
委員	花き生産業界(鉢花)	小関園芸 代表者	小関 正司	(欠席)
委員	花き装飾業界	ユリフラワーデザインスクール 副総長	内山 友樹	(欠席)
委員	造園緑化業界	(株)庭萬 代表取締役社長	稲垣 和美	Zoom参加
委員	流通業界	名古屋園芸株式会社 代表取締役	小笠原 誓	Zoom参加
委員	行政機関	農産園芸課長	大橋 薫子	Zoom参加
委員		岐阜県立国際園芸アカデミー 教授	臼田 浩通	
委員		岐阜県立国際園芸アカデミー 教授	相田 明	

事務局	役 職	氏 名
	岐阜県立国際園芸アカデミー 副学長	小野寺 誓
	岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 <花き生産コース>	井上 守
	岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 <花き生産コース>	前田 宝秀
	岐阜県立国際園芸アカデミー 講師 <花き装飾コース>	林 誠
	岐阜県立国際園芸アカデミー 准教授 <マネージメント>	佐藤 智茂
	岐阜県立国際園芸アカデミー 教務課長	工藤 岳彦
	岐阜県立国際園芸アカデミー 教務係長	伊藤 美由紀

# 岐阜県立国際園芸アカデミー教育課程編成委員会規程

## (目的)

第1条 この規程は、岐阜県立国際園芸アカデミー学則（以下「学則」という。）第13条の規定に基づき、企業・業界団体等との連携により実践的な教育の質の保証・向上を目指すため国際園芸アカデミー（以下、「本学」という。）教育課程編成委員会（以下、「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営に関して、学則第13条第2項に基づき必要な事項を定める。

## (職務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項に関する専門的な検討を行い、本学の教育課程の編成等についての意見を学長へ提言する。

- (1) 学生の就職先の業界における人材の専門性に関する動向
- (2) 地域の産業振興の方向性
- (3) 新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能など
- (4) その他、教育課程の編成に関連する事項

## (組織)

第3条 委員会は、本学教職員及び学術機関の有識者や関係企業に属する役職員、地方公共団体の職員等で組織する。

2 委員は、学長が委嘱する。

## (委員の承諾)

第4条 学術機関の有識者や関連企業に属する役職員から成る委員の就任については、本人の承諾（様式1）を要するものとする。

## (任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 欠員により新たに委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

## (委員長等)

第6条 委員長は学長をもって充てる。

2 委員長は、議事その他の会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるとき、又はかけたときはあらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

## (議長)

第7条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

## (会議の開催)

第8条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ開催することができない。

2 委員会は、年2回以上開催するものとする。

## (委員以外の者の出席)

第9条 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(報償)

第10条 委員の出席にあたり、報償費及び旅費を支給する。ただし、金額については別に定めるところにより支給する。

2 報償費及び旅費のどちらか、又は両方を辞退する場合は、希望する費用のみ支給する。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、教務課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成28年2月2日から施行する。

2 この規程の施行の日以後、最初に委嘱される委員の任期は、第5条第1項の規定にかかわらず、平成30年3月31日までとする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年3月14日から施行する。



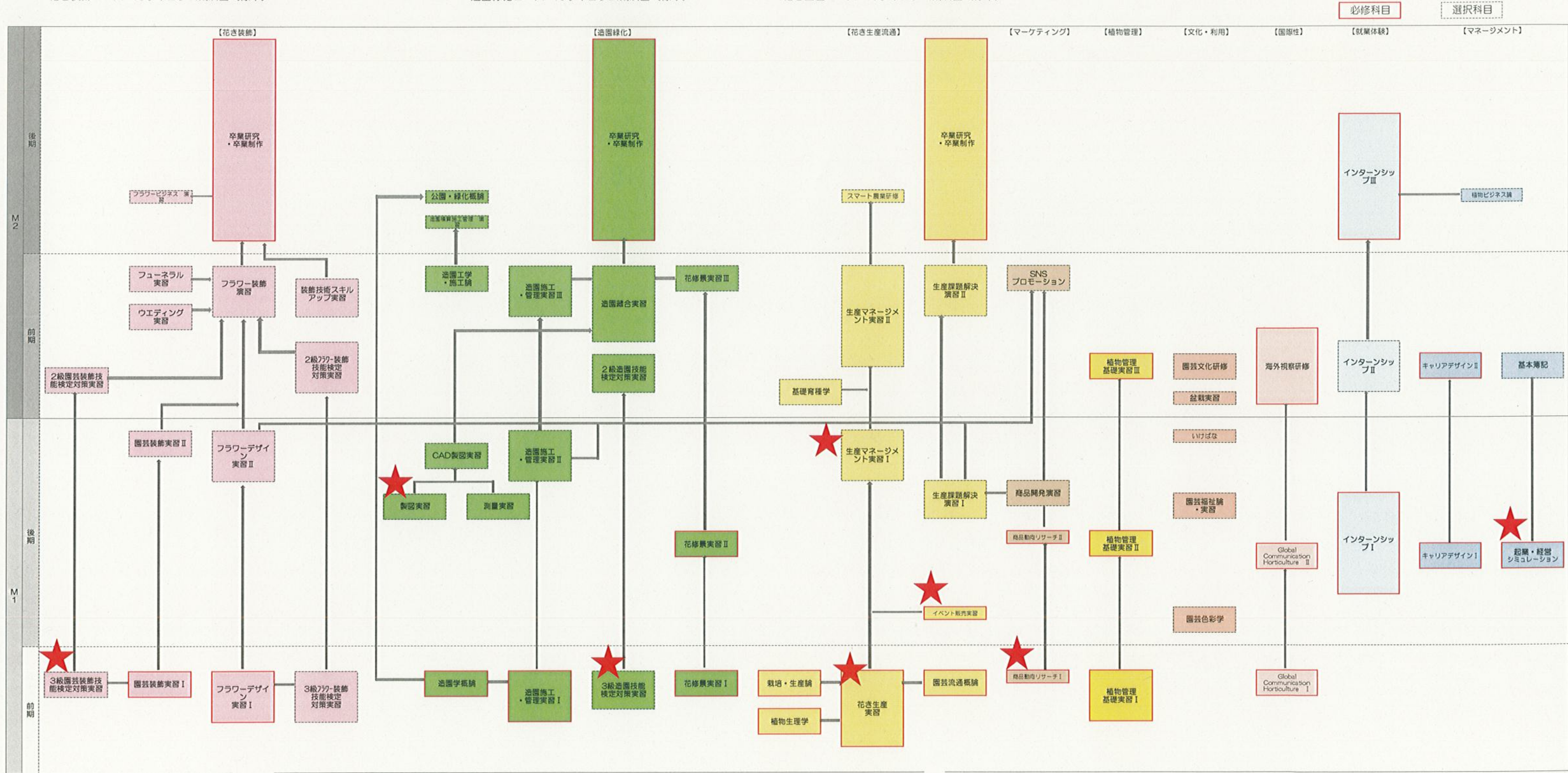
# 令和4年度入学生カリキュラム

花き装飾コース カリキュラム編成図 (標準)

造園緑化コース カリキュラム編成図 (標準)

花き生産コース カリキュラム編成図 (標準)

資料1





## ○マイスター科 1年（前期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	必修	栽培・生産論	白田	30
2	花き生産流通	必修	植物生理学	前田	30
3	花き生産流通	必修	花き生産実習	白田	90
4	花き生産流通	必修	園芸流通概論	井上	30
5	花き装飾	必修	園芸装飾実習Ⅰ	吉田	30
6	花き装飾	必修	フラワーデザイン実習Ⅰ	林	60
7	花き装飾	選択	3級園芸装飾技能検定対策実習	林	30
8	花き装飾	選択	3級フラワー装飾技能検定対策実習	安保	60
9	造園緑化	必修	造園学概論	相田	30
10	造園緑化	必修	花修景実習Ⅰ	相田	30
11	造園緑化	必修	造園施工・管理実習Ⅰ	新井	60
12	造園緑化	選択	3級造園技能検定対策実習	新井	45
13	マーケティング	必修	商品動向リサーチⅠ	井上	15
14	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅰ	前田	60
15	国際性	必修	Global Communication in HorticultureⅠ	大脇	30

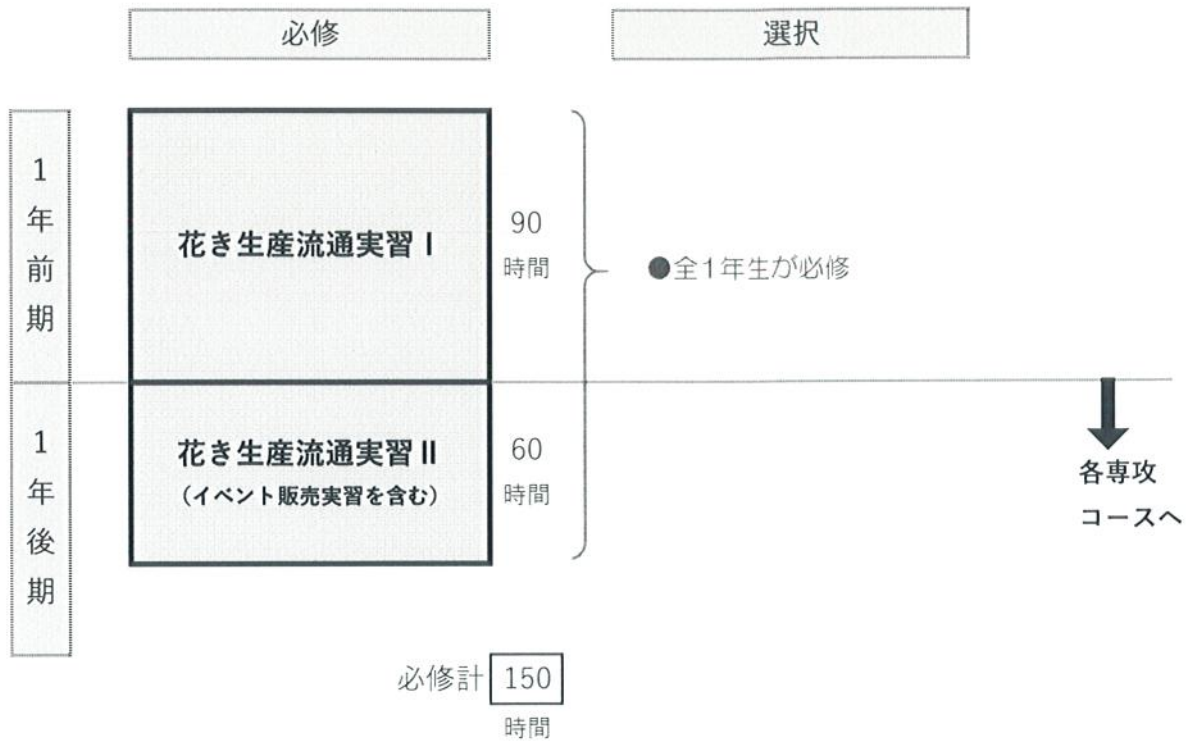
必修	495
選択	135

## ○マイスター科 1年（後期）開講科目

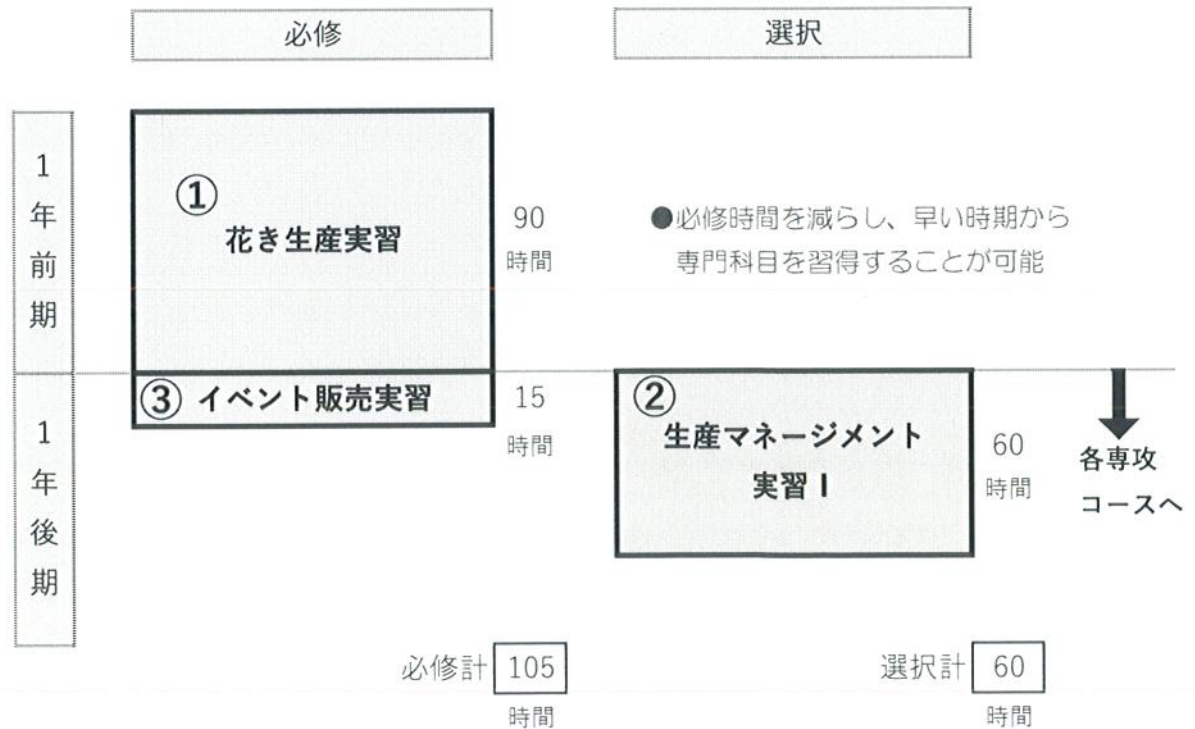
No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
16	花き生産流通	必修	イベント販売実習	井上	15
17	花き生産流通	選択	生産マネージメント実習Ⅰ	白田	60
18	花き生産流通	選択	生産課題解決演習Ⅰ	白田	45
19	花き装飾	選択	園芸装飾実習Ⅱ	吉田	30
20	花き装飾	選択	フラワーデザイン実習Ⅱ	林	60
21	造園緑化	必修	花修景実習Ⅱ	相田	30
22	造園緑化	選択	造園施工・管理実習Ⅱ	新井	60
23	造園緑化	選択	測量実習	新井	30
24	造園緑化	選択	製図実習	新井	30
25	造園緑化	選択	CAD製図実習	相田	30
26	マーケティング	必修	商品動向リサーチⅡ	井上	15
27	マーケティング	選択	商品開発演習	井上	30
28	マネージメント	必修	キャリアデザインⅠ	佐藤	30
29	マネージメント	必修	起業・経営シミュレーション	佐藤	30
30	文化・利用	選択	園芸色彩学	井上	30
31	文化・利用	選択	いけばな	片倉	15
32	文化・利用	選択	園芸福祉論・実習	相田	30
33	植物管理	必修	植物管理基礎実習Ⅱ	前田	30
34	国際性	必修	Global Communication in HorticultureⅡ	大脇	30
35	就業体験	必修	インターンシップⅠ	各コース担当教員	120

必修	300
選択	450

令和3年度



令和4年度





## ① 花き生産実習

	令和3年度まで	令和4年度
科目名	花き生産流通実習Ⅰ	花き生産実習
履修区分	必修	必修
授業形態	実習	実習
年次	1年	1年
開講時期	1年前期	1年前期
時間数	90	90
担当教員	白田浩通、前田宝秀、加藤孝義、 水谷喜輝	白田浩通、前田宝秀、小関正司、 水谷喜輝

### 〔背景と目的〕

花き産業で活躍するためには、花きの生産に関する幅広い知識が求められる。本科目では、春・夏期の花きの繁殖、栽培管理を行い、鉢物、苗物及び切り花生産におけるそれぞれの技術の習得を目指す。

### 〔到達目標〕

- ・花きの繁殖方法を理解する。
- ・花きの栽培管理を習得する。
- ・花きの出荷調整を習得する。
- ・チームワークの重要性を理解する。

### 〔授業内容〕

鉢・苗物班と切り花班に分かれて、春・夏出荷の花きの播種・栽培管理・出荷準備を、また、秋・冬出荷の花きの播種・育苗・定植等を行っています。

### ○苗・鉢物班

苗・鉢物班は花壇苗の播種・育苗・生産管理・出荷や、シクラメンを主とした鉢物の管理、挿し木等の栄養繁殖を行うことで、根付きの植物の生産技術を習得しています。実習ごとに作業リーダーを指名し、リーダーは作業の人員配置や進捗管理を行うことで、チームワークの重要性も学び、作業時間を計測することで、生産性の向上にも努めています。また、本校で開発したマイクロ寄せ植えの製作も実習に取り入れることで、花きの新商品に対する興味の喚起も行っています。



柵マイクロ寄せ植えの製作



シクラメンの葉組み



## ○切り花班

切り花班では、切り花の需要期であるお盆、年末、年度末に出荷できるような栽培体系に基づき実習を行っています。花き生産実習では、お盆出荷に向けてトルコギキョウ、アスター、マトリカリアの管理を中心に、周年栽培を行っている切りバラ、ガーベラの管理も行っています。実習では、定植、芽かき、葉かき、出荷調整等の作業を繰り返し行うことで、作業効率をいかに上げていくかを目的に行っています。



バラの管理作業



モルセラの収穫調整作業

### 〔組替による効果等〕

令和3年度までは「花き生産流通実習Ⅰ」（1年前期）及び「花き生産流通実習Ⅱ」（1年後期）を必修科目として開講し、1年生全員が1年を通じて鉢物・苗物・切り花の生産から流通・販売について学んできました。本年度より、1年前期の「花き生産実習」（必修）で、1年生全員が春・夏期の花き生産について学び、1年後期の「生産マネジメント実習Ⅰ」を選択科目として開講し、主に花き生産コースを希望する学生が秋・冬期の花き生産について学んでいます。専攻コースが決まった後の1年後期の花き生産系の実習を選択科目とすることで、花き生産コース以外を専攻する学生が、それぞれのコースに関連する授業を選択できるようになり、早い時期から専門科目を習得できることが可能となりました。また、花きの流通・販売については、本年度から新規に開講した「イベント販売実習」（1年後期、必修）の中で習得できるようにしました。

## ②生産マネジメント実習 I

	令和3年度まで	令和4年度
科目名	花き生産流通実習Ⅱ	生産マネジメント実習Ⅰ
履修区分	必修	選択
授業形態	実習	実習
年次	1年	1年
開講時期	後期	後期
時間数	60	60
担当教員	臼田浩通、前田宝秀、 水谷喜輝、吉田久美子、林誠	臼田浩通、井上守、前田宝秀、 嶋津光鑑、落合正樹、水谷喜輝

### 〔背景と目的〕

花き産業の現場では、即戦力として計画的に温室管理ができる人材が求められている。

本科目では、花き栽培温室の管理やゼミ会議を通じて生産現場におけるマネジメント能力の向上を図る。

### 〔到達目標〕

- ・温室の栽培計画が立てられる。
- ・施肥設計や品目、品種選定ができる。
- ・チームワークの重要性を理解する。
- ・マネジメント能力を身に付ける。
- ・業界の動向を知る。

### 〔授業内容〕

ゼミ会議を行い、各学生が担当温室の秋・冬栽培品目の管理状況や病害虫の発生など問題点を報告し、作業内容について話し合ってから栽培管理作業を進めます。ゼミ会議は、輪番で学生が司会を行い、各温室の作業状況に応じた作業の優先順位や人数の割り振りを行います。

また、定期的に業界紙の輪読を行い業界の動向についても学ぶほか、花き生産者をお招きしてポットマムの栽培方法についても学びました。12月には、岐阜大学応用生物科学部の先生をお招きして温室の暑熱対策や光の農業分野での活用についても学ぶ予定です。

各学生が自分の担当温室の観察・管理作業での工夫や失敗を通じて、マネジメント能力を身に付けること目指します。





ゼミでは学生が交代で司会を行います



販売実習に向けたシクラメン出荷準備



販売実習に向けた花束づくり



花き生産者によるポットマムの栽培指導

〔組替による効果等〕

令和3年度までは、「花き生産流通実習Ⅱ」（必修）で全学生が秋冬の花き栽培管理を学び、「生産プロジェクト実習Ⅰ」（選択）でゼミ活動と課題解決、担当温室管理を実施してきました。

本年度から主に花き生産コース専攻生が選択し、生産現場での実践力をつける「生産マネジメント実習Ⅰ」とテーマを持って栽培試験等に取り組む「生産課題解決実習Ⅰ」に再編したことで、各科目のねらいが明確となりました。

花き生産コース以外を専攻する学生も、それぞれのコースに関連する授業を選択できるようになり、専門知識を深めることが可能となりました。

### ③イベント販売実習

		令和4年度
科目名	—	イベント販売実習
履修区分	—	必修
授業形態	—	実習
年次	—	1年
開講時期	—	1年後期
時間数	—	15
担当教員	—	井上 守

#### 〔背景と目的〕

本校では、授業で作った鉢物や切花、フラワーアレンジなどを直接販売して、消費者から直に感想や意見を聞く機会を設けてきた。本科目では、学生が制作（生産）した商品を、ぎふワールド・ローズガーデン（岐阜県可児市）にて、野外販売をおこなう事で商品企画、制作、販売、会計、分析など、ビジネス活動における一連の流れを体験する。

#### 〔到達目標〕

- ①商品企画、商品開発、販売、分析の一連の活動を理解する。
- ②商品ディスプレイ、POP作成など、イベント販売における店舗デザインを学ぶ。
- ③接客時における接遇やマナーを実践的に体得する。
- ④イベントにむけて共働する事によるリーダーシップ、フォロワーシップを学ぶ。

#### 〔授業内容〕

- ①イベントの概要とターゲットとする顧客像
  - ・イベントの概要説明
  - ・顧客像の分析
  - ・販売方針決定
  - ・POP作成、役割分担
- ②VMD（ビジュアル・マーチャンダイジング）
  - ・キャッチコピー、看板の効用
  - ・ゴールデンゾーン、アイキャッチを意識したレイアウト
  - ・客の心をつかむPOPとは？

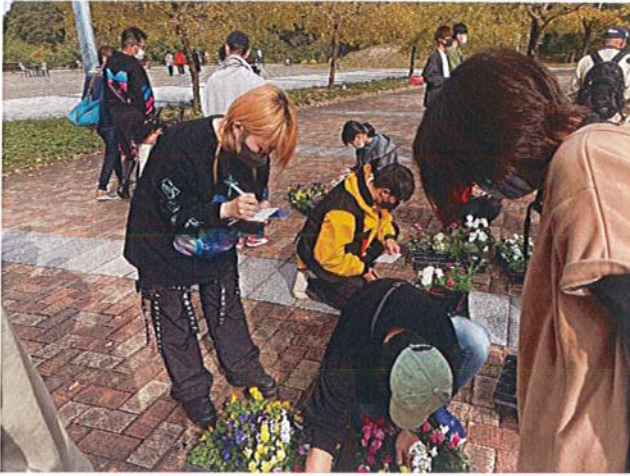


写真：店舗レイアウトの計画と実践

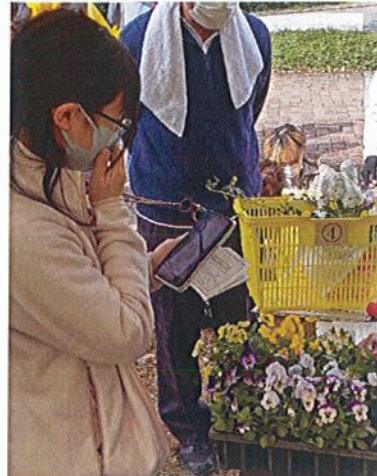


### ③IT を利用した会計

- ・販売支援アプリ「即売レジ」を利用した販売システムの構築



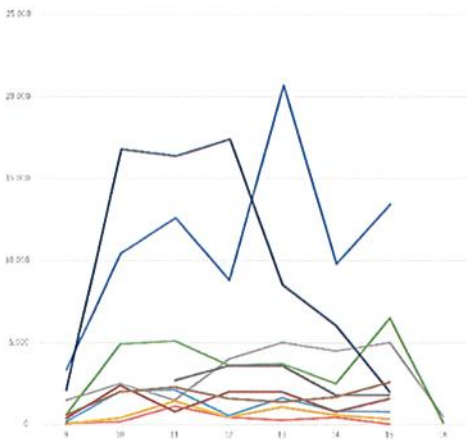
同時に複数個所で会計作業が可能



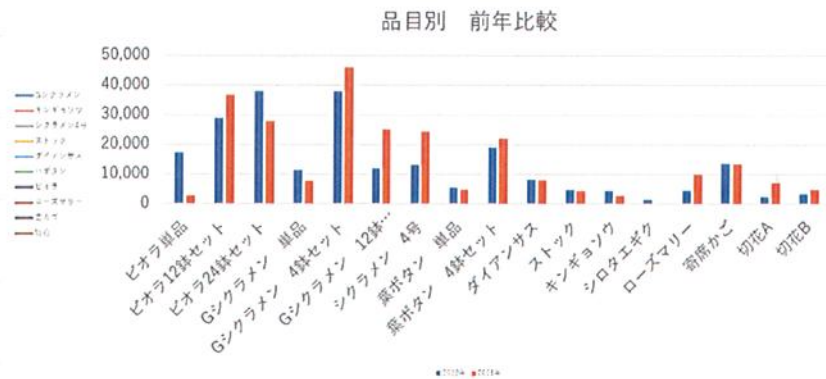
販売データを LINE で送信

### ④売上データ分析、総括

- ・POS データの活用
- ・総括ミーティングにつて



POS データから得られた結果を解析



### [新規・組替による効果等]

15 時間という短い時間であったが、集中的に行う事により、イベントに合わせて作業することができ、学生の意識が例年以上に盛り上がった。

## ④ 3級園芸装飾技能検定対策実習

	令和3年度まで	令和4年度
科目名	—	3級園芸装飾技能検定対策実習
履修区分	—	選択
授業形態	—	実習
年次	—	1年
開講時期	—	前期
時間数	—	30
担当教員	—	林 誠、佐久間 貴敏（非常勤講師）

### 〔背景と目的〕

園芸装飾技能検定は花や緑の装飾に関わる職業に従事する人として、室内装飾の技術があるかを判断するための国家試験である。

本科目は園芸装飾技能士の習得もしくは、同レベルの技術と知識の習得を目的とする。

### 〔到達目標〕

- ・合格水準の園芸装飾に関する技術を習得する。
- ・合格水準の園芸装飾に関する知識を習得する。
- ・実技試験内容を繰り返し制作練習することで装飾技術を習得する。

### 〔授業内容〕

- ① 検定試験の概要説明と準備
- ② 実技課題1の制作



③実技課題2の制作





#### ④効率的な実技課題制作



#### ⑤制限時間内での実技課題制作



#### ⑥学科試験対策

〔新規による効果等〕

昨年までは園芸装飾技能検定の練習時間を確保することが難しく、放課後や空き時間を活用したが、今年度は授業としてしっかり練習時間を確保することができたため、充実した指導を行うことができた。また、検定前に非常勤講師からの的確なアドバイスを受けることができた。



## ⑤ 3級造園技能検定対策実習

	令和3年度まで	令和4年度
科目名	3級造園技能検定対策実習	3級造園技能検定対策実習
履修区分	選択	選択
授業形態	実習	実習
年次	1年	1年
開講時期	前期	前期
時間数	30時間	45時間
担当教員	新井俊宏	新井俊宏

### 〔背景と目的〕

造園技能士は造園に関する知識と技能の試験を行い、その合格者に与えられる国家資格である。造園技能士は、一般の家庭の庭づくりや維持管理ばかりでなく、大規模な公共工事の現場で従事することが義務づけられるなど、社会的な必要性が高まっている。本科目は3級造園技能検定の合格を目指すものである。

### 〔到達目標〕

- ・学科試験の合格水準に達する知識を習得する。
- ・実技試験の課題制作が、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。
- ・実技試験の判断等試験に出題される樹木を判別することができる。

### 〔授業内容〕

学科・実技試験の概要説明

樹木枝の収集、樹木の特徴解説

実技試験課題の練習（竹垣、縁石、敷石）

実技試験課題の練習（制限時間内での練習）

過去問題による学科試験の出題傾向と対策

判断等試験対策

### 〔組替による効果等〕

- ・これまで30時間での実習を行ってきたが、実際には30時間の授業の時間だけでは検定試験合格レベルまでに到達することは困難であったため、授業時間数を45時間に増やした。
- ・これにより、授業時間外に行っていた自主練習時間を授業時間内で行うことにより、学生と教員の負担が軽減した。





## ⑥製図実習

科目名	令和3年度まで	令和4年度	
	測量・製図実習	製図実習	測量実習
履修区分	選択	選択	選択
授業形態	実習	実習	実習
年次	1年	1年	1年
開講時期	後期	後期	後期
時間数	30時間	30時間	30時間
担当教員	相田明、新井俊宏	新井俊宏	新井俊宏

### 〔背景と目的〕

造園空間を施工する上で必要となる各種図面は、デザイナーの意図を明確に伝える役割を持ち、コミュニケーションを図るためのものである。そのために必要な設計作図技術の基本を学ぶ。

### 〔到達目標〕

- ・造園に関わる基本的な設計・図面に関する事柄を理解できる。
- ・平面図や立面図など造園に関わる図面を描ける。
- ・スケール感を身につける。

### 〔授業内容〕

製図用具の種類と取り扱い、図面の種類と描き方

図面と縮尺、文字・数字の書き方

造園樹木の平面図、立面図の表現方法

造園計画平面図（住宅庭園）の表現方法、着彩①

各種構造図の製図

アクソメ図、パース図の作成

造園計画平面図（街区公園レベル）の表現方法、着彩②

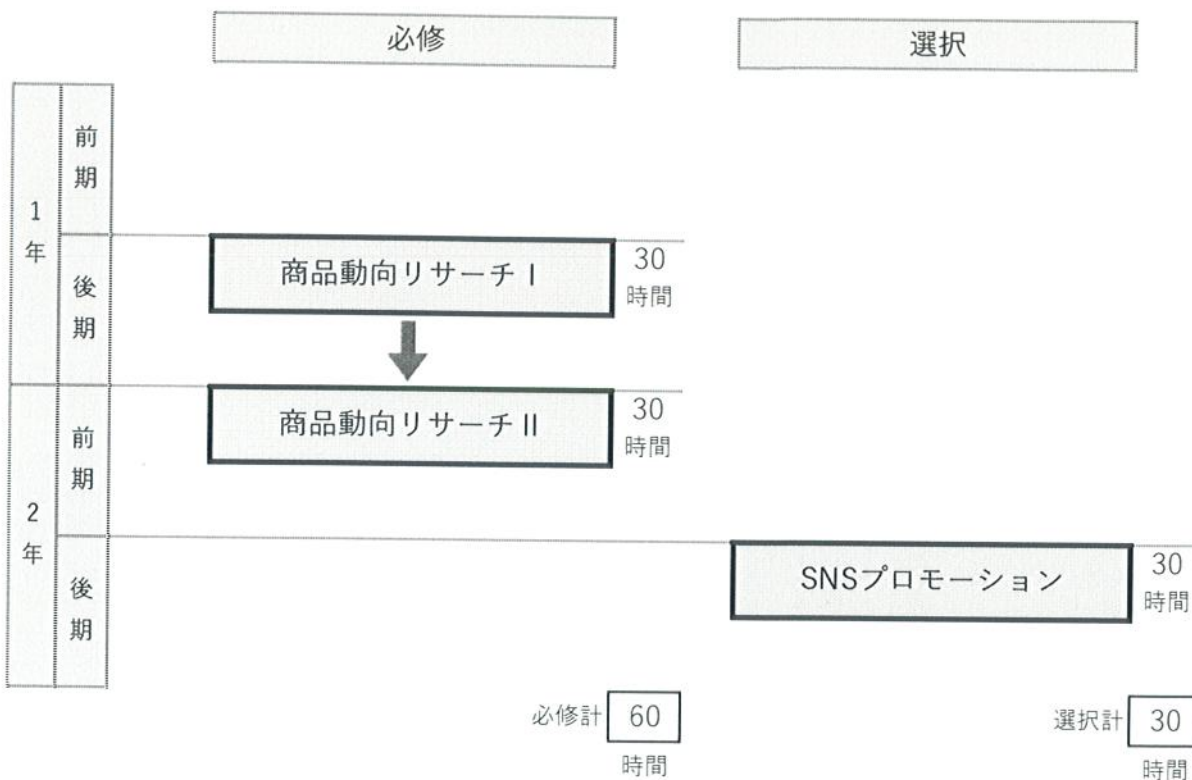
造園計画平面図（総合公園レベル）の表現方法、着彩③

### 〔新規・組替による効果等〕

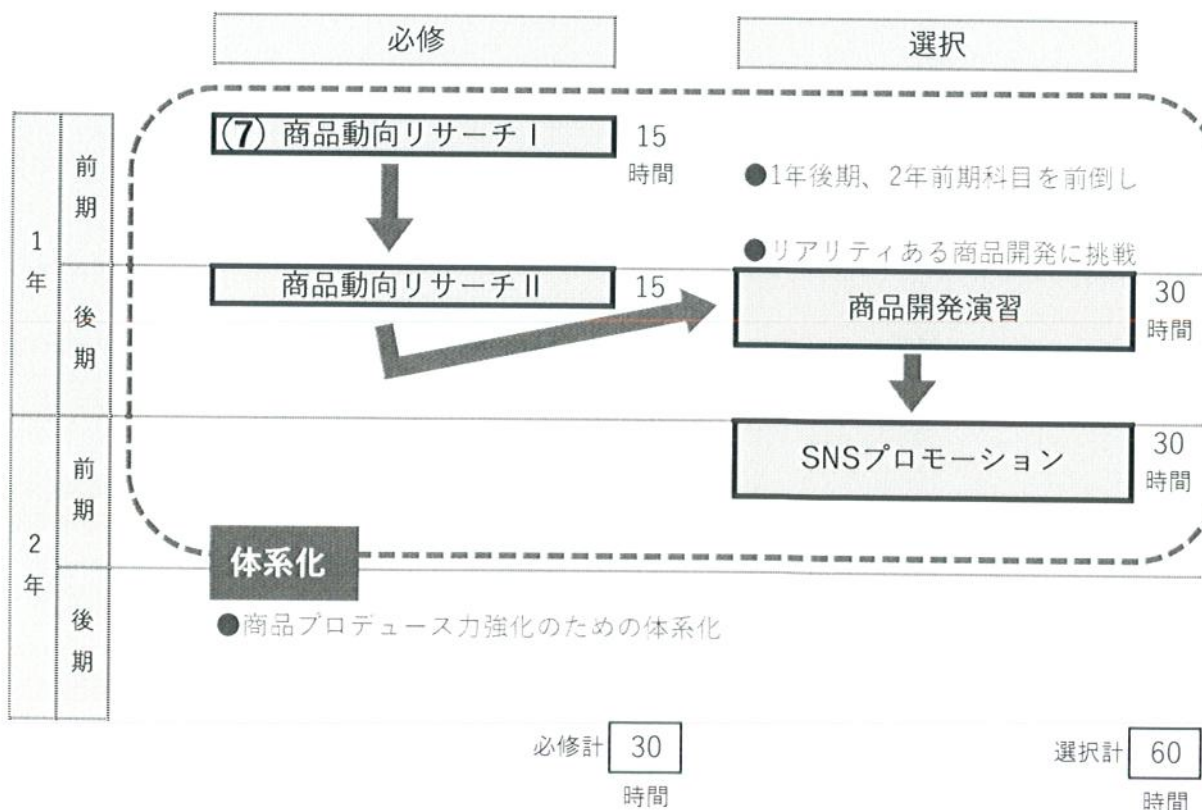
- ・令和3年度までの測量・製図実習を製図実習と測量実習に組み替えて、それぞれ30時間とした。  
これまでの2倍の時間数で実習を行うことにより、製図および測量の知識や技術をより深く習得することができる。

# マーケティング分野

## 令和3年度



## 令和4年度





## ⑦商品動向リサーチ I

	令和3年度まで	令和4年度
科目名	商品動向リサーチ I	商品動向リサーチ I
履修区分	必修	必修
授業形態	実習	実習
年次	1年	1年
開講時期	1年後期	1年前期
時間数	30	15
担当教員	井上 守	井上 守

### 〔背景と目的〕

日本で流通する園芸植物は属名ベースで 1600 属以上といわれている。この授業では、鉢物の取引量で全国 1 位を誇る愛知豊明花き卸売市場が 2020 年に取り扱った約 1600 品目のうち、春夏期の取扱金額上位の 150 品目の植物について、学名や原産地や特徴や管理方法について独自の手書きのデータベースを作成する。取り扱い上位の植物から学習することは現場流通している植物の基本的性質を効率的に学習することができる。

### 〔到達目標〕

- ・ 図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方を知る。
- ・ 植物の写真の撮り方の基礎を知る。
- ・ 植物図鑑アプリを使用できる
- ・ 春夏期、上位 150 品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。

### 〔授業内容〕

#### ①植物の調べ方

- ・ 植物の調べ方、図鑑の見方、ネット検索の注意点

#### ②植物の撮影方法

- ・ 植物撮影の基礎、デジカメの使い方、画角の決め方、ライティングなど

#### ③花木センターでの写真撮影 (2回)

- ・ 5月：キク科、キンポウゲ科などの代表的な春の植物の調査、写真撮影
- ・ 7月：観葉植物を中心とした夏の植物の調査、写真撮影

#### ④データベース作成、植物調べ

- ・ 画像データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ

#### ⑤試験

- ・ 写真から植物を同定する試験

### 〔新規・組替による効果等〕

授業時間数が減ったが、早い時期から体系的に取り組むことで、商品プロデュース力を高める効果を期待する。また、タブレットの有効活用により、学外での作業時間が確保できるようになり、30 時間分の同等の成果が得られた。

## ⑧起業・経営シミュレーション

	令和3年度まで	令和4年度
科目名	起業・経営シミュレーション	起業・経営シミュレーション
履修区分	選択	必修
授業形態	講義	講義
年次	2年	1年
開講時期	前期	後期
時間数	30	30
担当教員	佐藤智茂	佐藤智茂

### 〔背景と目的〕

「互いに協力して行う活動を、より良いものにするための工夫」である経営に関する学問『経営学』の基礎知識を学ぶことを目的とする。

### 〔到達目標〕

- ・経営学の基本的な知識の習得
- ・企業・組織の経営について、経営学の基本的な理論を用いて考えることができる

〔授業内容〕 \*10/31時点での既習内容（第1講～第4講）

### 1回目：【経営学の歴史】

『科学的管理法の父』と呼ばれるフレデリック・テイラーの考案したテイラーイズムの功罪（功は生産性の向上、罪は結果として労働者の人間性への配慮の欠如）について、さらには「経営学は生産性の向上だけでなく、そこで働く人（＝組織）への視点を持つ」ことで発展して来たことを講義

### フレデリック・W・テイラー



1856～1915

#### 『科学的管理法の父』

1. 個人の仕事の各要素を「科学的に（時間・動作）」分析し、仕事を最も効率的に実行できる唯一最善の方法を考案する。（後略）
2. その仕事をするのに最適な人物が、同じく「科学的に」選ばれる。選ばれた人物は考案された通りのやり方で仕事をするよう教育される。（後略）
3. マネージャーは考案した科学的方法で仕事が行われるよう作業者と協力しなければならない。
4. マネージャーと作業者の、仕事と責任を分ける明確な「境界線」がある。マネージャーは計画立案と監督に携わり、作業者はそれを実行する。

<https://stanford.jp/article/5267?page=2より抜粋引用。一部改題>

### 2回目：【経営資源とは何か】

企業の経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」について、経営学では「どのようなことを学ぶ」のかを一つずつ事例を用いて講義

○ヒト：「囚人のジレンマ」を用いて、個人の利得の最大化を選択すると、組織としては最も損失の大きな結果をもたらすことを学習（組織論）

○モノ：価格の下限は「コストの積算」、上限は「購買者の認める価値相応の金額」であり、この幅の中で決まる、という考え方（マーケティングミックス）

\*経済学の市場価格（受給曲線上の均衡価格）とは違う視点

### 「ヒト（組織）」を科学する

	佐藤さんは <b>自白</b>	佐藤さんは <b>黙秘</b>
鈴木さんは <b>自白</b>	佐藤さん：懲役7年 鈴木さん：懲役7年	佐藤さん：懲役10年 鈴木さん：懲役0年
	チームとして <b>最善解</b>	鈴木には <b>最善解</b> 佐藤には <b>最悪解</b>
鈴木さんは <b>黙秘</b>	佐藤さん：懲役0年 鈴木さん：懲役10年	佐藤さん：懲役3年 鈴木さん：懲役3年
	佐藤には <b>最善解</b> 鈴木には <b>最悪解</b>	チームとして <b>最善解</b>



○カネ：損益計算の基本的な概念の損益等式『収益－費用＝利益』を理解するとともに、利益額の増加額＝収益の増加額ではないこと（＊収益の増加にはコストの増加を伴うこと）を学ぶ

### 「カネ」を科学する

費用 (変動費) 960円	売上高 1,000円	売上高1,000円－費用960円＝利益40円
利益 40円		皆さんに質問です。利益を、あと20円増やして60円にしたいと考えています。 利益を60円にしたいなら、売上高をいくら増やせば達成できるのでしょうか？
		利益率：40円÷1,000円＝0.04（4%） ＊利益をあと20円増やしたい・・・ 20円÷0.04（利益率）＝500円の売上増

### 3回目：【株式会社の成り立ちと仕組み】

○株式会社の本質は、オーナー（出資者）である「株主」と事業運営の主体である「経営者」の相互補完による組織運営であり、利害関係者との利害調整と利益の配分が存在目的の一であることを講義

### 会社とは何か？



### 4回目：【株式会社をつくろう】

○日本証券業協会作成教材を使い、事業アイデアの創出から株式会社の設立、資金調達（株式発行）までをロールプレイ形式で学ぶ ＊5回目講義まで

[組替による効果等]

- 本年度カリキュラムより必修化、全ての学生が履修する。また開講時期を2年前期から1年後期へ変更。そのことで期待できる効果等を下記する。
  - インターンシップや就職活動等、企業との接点が増えるこの時期に、企業経営の基本的な知識を習得できる。
  - 卒業までの期間、学内外での様々な活動を通じて学生が得る体験、知識と経営学の知識の相乗効果（例えば起業家精神の涵養）を期待できる。

令和4年度 インターンシップ受入企業の意見

業界が求める人材・能力・資格

1 <業界が求める人材>

- ・コミュニケーション能力  
接客はもとより、職場での協同作業により目標を達成していくため  
取引先、エンドユーザーのお客様、社内メンバーでの報連相、どの場面でも絶対に必要なスキル
- ・考えて行動できる人
- ・提案実践改善を繰り返し行い、成長できる人材
- ・お花が好きな気持ちと前向きに学ぼうとする姿勢
- ・明るく元気で周囲のことによく気がつく人材
- ・造園に必要な人材はモノづくりが好きな方
- ・物事に積極的に進んで取り組む姿勢のある人
- ・知識を得ようとする貪欲さ
- ・精神的にタフで楽観的であること
- ・前向きな努力を長期に渡り続けられる持続性
- ・人を助ける心がある事
- ・声大きい事（現場）
- ・様々な外部発注、制作管理などスケジュール管理能力がある人材
- ・体力

2 <技術的能力>

- ・農薬等の専門知識、良品生産に向けての知識
- ・花の育て方、植物の組み合わせ（寄せ植え）や用土、肥料など様々な質問に答えられる知識
- ・植物を育てるための知識（樹木の特性・剪定方法・病害虫対策・土壌改良工法）
- ・花が咲いていなくても樹種がわかるようになる事（葉や幹から判別できる）
- ・提案書などを作成するPCスキル
- ・自分のアイデアを相手に伝える能力  
（アウトプット力exデザインツールなど、他プレゼンテーション能力）
- ・造園業務の中では、Word,Excelの他に、PowerPointやiLLustrator、AutoCADなどを利用  
最近では3Dで図面を作成するBIMCIMなども導入  
新たなソフトを活用できる能力

3 <資格>

- ・中型免許(2tトラック運転)【造園】
- ・フォークリフト【生産/大型園芸店】
- ・グリーンアドバイザー【大型園芸店】
- ・フラワー装飾技能士2級程度。生け花【装飾】
- ・色彩関係の資格など【装飾】
- ・特別教育(車両系建設機械・移動式クレーン)、玉掛け、チェーンソー、刈払機の資格【造園】
- ・造園技能士(1,2,3級)、造園施工管理技士(1,2級)、土木施工管理技士(1,2級)、測量士、  
街路樹剪定士、植栽基盤診断士、職業訓練指導員、樹木医、ピオトープ管理技士【造園】
- ・登録ランドスケープアーキテクト (RLA)資格【造園】



## 学校への意見・要望

- ・技能や資格は社会人になって身に付けられますが、忍耐力・協調性などが身につく指導をお願いしたい。
- ・造園の楽しさは、自然のモノを扱い、どう活かすか。自分で考えた風景をカタチあるモノに創り上げ、そこで何を提供するのか、ここが醍醐味だと思いますので、学生時代に少しでも、幅広く体験できる機会があれば、造園の素晴らしさを感じてもらえるのではないかと思います。
- ・学生さんが来られると社内の若い人材が教える立場になり、人に教えることの難しさを体験することができるので、会社にとっても良い経験だと思いました。
- ・園芸、造園専門の知識を持つ人材が少なくなってきました。  
公園業務の発注者も、道路部局からの異動などが多くみられますし、施工業者も造園の知識が少ない土木業者が受託し、庭園設計に設計意図が上手く伝わらなかった例もあります。引き続き、造園業界の下支えと人材の輩出に貢献いただきたいと考えております。
- ・SDGS等、新たな取組みが社会的に進んでいる中、そうした変化に対応する力や知識・技能を有した人材育成が望まれると思います。